

エドワード

1 「どうしたの 血のしたたるその刀は

エドワード エドワード

どうしたの 血のしたたるその刀は なぜそんなに悲しそうにしているの「

「ああ ぼくはあの見事な鷹を殺してしまった

母さん 母さん

ああ ぼくはあの見事な鷹を殺してしまった たつた一羽の鷹を」

2 「鷹の血はそんなに赤くはない

エドワード エドワード

鷹の血はそんなに赤くはない

そうだろう おまえ

「ああ ぼくはあの葦毛の馬を殺してしまった

母さん 母さん

ああ ぼくはあの葦毛の馬を殺してしまった あんなに美しく元気な馬を」

3 「あの馬はもう老いぼれ ほかにも馬はいる

エドワード エドワード

あの馬はもう老いぼれ ほかにも馬はいる

エドワード エドワード

ほかに悲しいことがあるのでしょうか

「ああ ぼくは父さんを殺してきたのです

母さん 母さん

ああ ぼくは父さんを殺してきたのです ああ なんということだ」

4 「おまえはどんな罪ほろぼしをするのだい

エドワード エドワード

おまえはどんな罪ほろぼしをするのだい

エドワード エドワード

いつておくれ わたしの息子」

母さん 母さん

ぼくはあの舟に乗つて行く

海の彼方かたへ行つてしまおう

5 「あのお城の塔や広間はどうするのだい

エドワード エドワード

あのお城の塔や広間はどうするのだい

あんなに立派な塔や広間は」

「くずれるままにしておくさ

母さん 母さん

くずれるままにしておくさ

ぼくはもう二度と帰つてこないのだから」

「おまえの子供や嫁はどうするのだい

エドワード エドワード

おまえの子供や嫁はどうするのだい

おまえが海の彼方かなたへ行くのなら」

「世間は広い 死ぬまで乞食をさせるさ

母さん 母さん

世間は広い 死ぬまで乞食をさせるさ

ぼくはもう二度と会わないのだから」

「それで この母さんには 何を残しておくれだい

エドワード エドワード

この母さんには 何を残しておくれだい

いつおくれ わたしの息子

母さん 母さん

あなたは地獄の呪いを受けなさい

殺せといったのは あなただから」

(薮下卓郎訳)

7